

一般社団法人日本粘土学会 2021 年度第 2 回理事会議事録

日 時：令和 3 年 1 月 23 日（土）15:05～17:00

会 場：WEB 会議室

出席者：理事（26 名）小暮敏博（WEB）、千野裕之（WEB）、中川昌治（WEB）、佐藤 努（WEB）、會澤純雄（WEB）、井出裕介（WEB）、伊藤健一（WEB）、上原元樹（WEB）、小口千明（WEB）、亀島欣一（WEB）、黒田義之（WEB）、笹井亮（WEB）、寒河江竹弘（WEB）、地下まゆみ（WEB）、鈴木正哉（WEB）、鈴木康孝（WEB）、高木慎介（WEB）、田村堅志（WEB）、手束聡子（WEB）、中戸晃之（WEB）、日比野俊行（WEB）、万福裕造（WEB）、宮元展議（WEB）、毛利恵美子（WEB）、横山信吾（WEB）、鈴木憲子（WEB）

監事（2 名）：月村勝宏（WEB）、志々目正高（WEB）

理事以外の常務委員（4 名）：川俣 純（WEB）、佐久間博（WEB）、樽田誠一（WEB）、森本和也（WEB）

事務局：川島朝子（WEB）

欠席者：理事（1 名）：三好陽子

成立確認：理事総数 27 名の過半数 14 名、出席理事 26 名で理事会の開催は成立

審議事項

1. 2021 年度事業報告（資料 1）

（1）学術雑誌の編集と発行

日比野編集委員長（粘土科学）、中戸編集委員長（Clay Science）からそれぞれ資料をもとに報告があった。Clay Science Vol. 24 について No. 3-4 の発行は手持ちの論文数から現実的ではないので、NO. 2-4 合併号での発行を考えている。

（2）研究発表会・見学会等の開催

樽田実行委員長より、第 64 回粘土科学討論会（信州大学）は 2021 年度に延期となったので、引き続きその準備をすすめているとの報告があった。

（3）シンポジウム・セミナーの開催

田村企画委員長より、昨年企画をした通りに「粘土科学における SDGs」を実施する旨の報告があった。依頼している講師には、オンラインなら講演可能であるとの方もいるので、対面・オンラインハイブリッドでの開催ができるように、樽田実行委員長と相談の上準備をしているところである。

（4）参考粘土試料

森本参考粘土委員長より、資料をもとに報告があった。コロナ禍で研究活動が抑えられているためか、多少売り上げが少ないとの説明があった。

（5）広報

佐久間広報委員長より、資料をもとに報告があった。

（6）渉外

川俣渉外委員より、今週に入って ICC に関して大きな動きがあり、今年度で開催が予定されていた 17th ICC が 2022 年に延期されることが正式にアナウンスされた。それに伴い AIPEA からは Bradley Award と Student Travel Found の募集延期が発表された。2024 年開

催予定の米国粘土学会とのジョイント開催については、前回から進展はしていないとの報告があった。

(7) 表彰

小暮会長より、資料をもとに報告があった。

(8) 研究促進

小暮会長より、資料をもとに報告があった。

(9) 庶務

手束庶務委員より、資料をもとに報告があった。また、JpGUに関連した報告が小口庶務委員よりあった。年会費を値上げした分参加登録費を値下げし、参加し易いようにすることがJpGU内で検討されているとのことであった。

(10) 常務委員会及び理事会

小暮会長より、資料をもとに報告があった。

2. 2021年度会計中間報告（資料2）

伊藤会計委員から、資料をもとに報告があった。雑誌の販売などが無いので相変わらず会計は苦しいところであるが、事務局のご尽力で持続化給付金が満額の200万円給付され、なんとか持ちこたえているとのことで、事務局へのお礼の言葉があった。また欠号している粘土科学討論会要旨集について、坂本先生から学会誌の寄附がありそのなかにあるかもしれないが、まだ整理ができていないとの報告が事務局よりなされた。

小暮会長より学術振興基金があと2から3年で無くなってしまうので、何か方策がないとの問題提起があった。学術振興積立金運用委員会では受賞者の決定、つまり支出に関する議論しかしてこなかったため、原資についての議論をするように佐藤常務委員長から八田委員長に伝え、委員会で原案を作成し次回の理事会で諮ることとした。

昨年授与した学術振興賞に関して小暮会長より高木理事に確認をした。参加予定の国際会議は延期となっているが、どのような形式であっても開催はされるので出席し、また論文の投稿もするとの回答であった。

3. EBSCOデータベースへの登録について（資料3）

日比野粘土科学編集委員長より、資料をもとに説明があった。また、中戸Clay Science編集委員長からも発言があり、意見が求められた。反対意見が無かったため、日比野委員長よりEBSCOに返事をする事となった。

4. 受理論文の早期掲載（いわゆるASAP）について（資料4）

中戸Clay Science編集委員長より、資料をもとに説明があった。常務委員会において早期掲載に反対の意見は無かったが、余分にかかる経費の負担について意見が分かれたため、理事会で決定してもらいたい。理事より、早期掲載は個人の都合なので、希望者が負担するのがよいという意見が出され、反対意見もなかったため資料の2番で決定となった。

## 5. 粘土科学討論会（資料5）

樽田実行委員長より資料をもとに説明があった。日程以外は大きな変更はなく、対面での開催を視野に準備をしている。山崎前会長の講演は「特別講演」とすることが決まった。佐藤常務委員長より5月中旬ごろに臨時理事会を開催し対面かオンラインかを決定したいという提案がされ、承認された。理事より、申し込み前に理事会で決めるのは賛成だが、その後対面での開催が不可能になった場合についても計画をしておいた方がよいとの意見が出された。

## 6. 著作権ポリシーについて（資料6）

日比野粘土科学編集委員長より、資料をもとに説明があった。査読前は中戸編集委員長も認められないとの意見で、著作権ポリシーの連絡は以下の様に日比野委員長より回答することとした。

連絡先アドレス：事務局

研究分野：理学、工学、農学、医学・歯学・薬学、複合領域

著作権の帰属：学会に帰属

ポリシー：Blue 査読後論文のみ認める。

（他学会について web で確認したところ一番多かった）

## 7. その他

小暮会長より AIPEA Nomenclature Committee のメンバーを長年勤めているが、委員会の再編を機に新しい人を推薦したい。誰もいなかったら自分が続けるが、自薦他薦で手を挙げて欲しいとの発言があった。

以上、審議の上承認された。

## 報告事項

### 1. 日本粘土学会 Twitter 公式アカウントの開設

佐久間広報委員長より、Twitter 公式アカウントの開設し、今後は色々なお知らせを発信していくので是非利用して欲しいとの報告があった。佐藤常務委員長より現在フォロワーが身内4名だけなので、アカウントを持っている人はフォローして欲しいとお願いがあった。

### 2. 持続化給付金の受領

事務局川島様より、持続化給付金受領の報告があった。また使い道について他学会では貯蓄、電子化、学会参加費の減額などに充てているとのことであった。伊藤会計委員より、満額支給されたことは喜ばしいことであるが、それだけ本会の財政状況は厳しい状態であるとの認識をして欲しいとのことであった。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、会長及び監事がこれに記名押印する。

令和3年2月3日

一般社団法人日本粘土学会 理事会

代表理事（会長） 小暮敏博 ⑩

代表理事（副会長） 中川昌治 ⑩

監 事 月村勝宏 ⑩

監 事 志々目正高 ⑩